



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



持続可能な開発目標(SDGs)は、2030年迄に持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、世界で、そして日本でも積極的に取り組まれています。株式会社創建は、事業活動を通じ、地域社会の一員として信頼される企業であることを目指しています。その為のSDGsの取組みとして、住宅の長寿化と省エネ化を通じてCO<sub>2</sub>削減を進めると共に、まちづくりの観点から、こうした住宅が増えれば防災や環境などに強い街になれると考えます。HEAT20 G2グレードの標準化等、より高気密・高断熱の住宅にすることで外気との寒暖差を少なくし、エアコン稼働率を抑える環境に優しい家を供給し、人が、そして街が、自然とCO<sub>2</sub>削減に取り組める様、引き続き、SDGsを推進して参ります。

事業活動を通じた  
持続可能な明るい  
豊かな社会の実現

# 未来のために 今、私たちが創建が できること。

## 株式会社創建が特に注力するSDGs目標



気候変動に具体的な対策を

徹底した省エネ対策や耐久性の強い住まいの長寿命化により、温室効果ガス排出量を低減し、温暖化抑制に貢献します。



住み続けられるまちづくりを

全ての人が安全で暮らしやすく、災害に強く、環境負荷の少ない住みづくりを推進します。



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

商品とモノづくりの両面から、脱炭素を推進する為、ゼロエネルギー住宅・まちづくりを展開します。



## 地域と共に、住みよい街づくりを実現する

- 高気密・高断熱の「HEAT20 G2グレード」標準化
- CO<sub>2</sub>排出量が少なく環境に優しい「ECO ONE」採用
- 高性能樹脂窓で国内最高基準の断熱性能を実現
- 高効率太陽電池パネル標準設置
- LIXILのSSバリュー「耐震等級3相当設計」採用
- 「設計住宅性能評価書」「建設住宅性能評価書」取得

UA値 (w/m <sup>2</sup> ・K)	断熱等級
HEAT20 G2	断熱等級6
HEAT20 G1	断熱等級5
ZEH基準 (2020年基準)	断熱等級4
H28年改正省エネ基準 (2025年基準)	断熱等級3

ハイブリッド給湯・暖房システム ECO ONE

## 環境に優しく地震に強い創建の家

**断熱性・省エネ効果を発揮**  
創建の建物の窓は、樹脂フレームとLOW-E複層ガラスにより国内最高レベルの断熱性能を実現した新発想の高性能樹脂窓を採用しています。熱の出入りを抑え、夏も冬もいつも快適であり、エコ住宅との相性も抜群です。新技術によりフレーム強度を向上させ、スリム化も実現しています。樹脂窓は、夏場は高温になることもなく、冬場は結露を防ぐ等、室内温度が快適に保たれます。

**高気密・高断熱の「HEAT20 G2グレード」標準化**  
HEAT20とは、2009年に発足した、2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会の略称で、各地域において冬季の住空間の体感温度を13℃～15℃以上に保ち、冬季の暖房負荷をH28年改正省エネ基準(断熱等級4)の住宅と比べておおよそ30%以上削減し、ZEH(断熱等級5)などの優れた省エネルギーを目指す住まいの推奨基準です。2025年にはH28年改正省エネ基準(断熱等級4)が義務化され、2030年にはZEH(断熱等級5)が義務化される中で、創建の家はUA値0.46のHEAT20 G2グレードを標準とし、「断熱等級6の実現」「H28年省エネ基準より省エネルギー性能暖房負荷削減率約40%を達成」する等、これからの高気密・高断熱な快適な住まいを提供していきます。

**建売分譲事業**  
高気密・高断熱の「HEAT20 G2グレード」標準化



## 住まう人の夢、こだわりをカタチに

**IoTで暮らしが変わる、次世代テクノロジー**  
共働き世帯数が年々増加すると同時に侵入窃盗に最も狙われやすい留守宅が増え、またスマートフォン所有が当たり前の時代において、IoT住宅はこれまでにない快適な暮らしが実現出来ます。忙しい朝の時間帯に「つと」なしていったルーティンは、IoTの活用によりすっきり様変わりします。例えば、起床前に窓のシャッターが自動で開き、起床後はベッドの上からスマートフォンでエアコンや照明、空気清浄機の電源を入れて、操作することが可能となります。もしも、スマートフォンから電源をオフに。IoT住宅で過ごす朝のひとときは、これまでにない快適さと余裕に満ちます。



## 技術とノウハウで『街の土台』を創る

**注文住宅事業**  
理想やご要望、ご予算などに合わせて、専属の設計士や建築デザイナーがお客様お一人おひとりのライフスタイルにあった住宅をご提案いたします。

**土地開発事業**  
丘陵地が多い地域で、その強みを最大限に活かす。起伏の多い丘陵地や様々な条件で開発が困難な土地も、土地が持つ資質を活かし、最適な開発を進めています。快適な居住空間が永続的に続くように、自然との調和も大切にしています。

